

召天者記念礼拝

2022年9月18日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩 編 115編1節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 46章3～4節 (旧1137)

フィリピの信徒への手紙 3章17～4章1節
(新365)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 361 (1)

説 教 「天に本国を持って」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 280 (1)

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

9月の祈り

天に国籍を持つものとして、礼拝生活が保たれ、祈りのところが力づけられるように。

主にあって召された信仰の先達たちを偲び、主にある救いと恵みの信仰を受け継ぎ、教会に連なる歩みを重ねることができるように。

平和を求める祈りが力づけられるように。

今日の祈り

主イエス・キリストを信じ、主に結ばれ、主と共に信仰と希望と愛とに生きる道に歩んだ兄弟姉妹を覚え、祈ることができるように。

愛する、家族近親を主の御許に委ねた人々に主がみ手を伸べて慰めを与えられるように。

「天に本国を持って」 高橋和人

フィリピの信徒への手紙 3:17～4:1

愛する者の姿が失われてしまっていることは、深い悲しみである。しかし、わたしたちが召天者を記念するのは、失われてしまったものたちを思い出し、忘れないようにするためではない。

キリストは十字架と復活によって死に勝利された。わたしたちはこの十字架の事実を思い起こし、その事実がもたらしたことを確認する。その上で召された兄弟姉妹を記念することができる。

主イエスの十字架の死と復活がもたらしたことは、生きているものたちによって礼拝が守り続けられていることである。これは、信じたことをつないでいる。礼拝の一つ一つは鎖のように信仰によって繋がれ守られている。今信じているものがあることは、信仰の命脈が途切れることなく受け継がれていることを示す。既に召された人自身の信仰とその人

を主にゆだねた人々の信仰が生きた流れになっている。この流れは主の導きによっている。主は言葉によって導くからだ。

主の言葉を聞く礼拝が生きた流れとなって今も流れる。それが、現にここにある。そこでは礼拝に生きる姿が模範となる。パウロはわたしに倣うものになれという。滅びるものでなく、失われることのないものに根拠を置くからである。

滅びるものは、自分の腹を神とすることである。自分自身を生きる根拠にする。腹は、満足を求め、飽くなきものであり、虚栄となり際限のないもの。しかし、腹と腹の求めたものは死によってすぐに消滅してしまう。

しかし、わたしたちが記念する人々は失われることがない。イエス・キリストの十字架と復活に現わされ実現したこと、つまり神の御心と約束の事実委ねられた。それは、われらには揺るぎのない国籍を持つ国である。本国の原語は市民権。いっどこにいても、その国に属する者として扱われる権利を持つ。そしてその国にある生き方を貫くことができる。その権利は信仰と礼拝に生きるという姿が保証されることである。

この姿は、信仰の先輩たちから引き継ぎ、共有しているものである。それぞれに、个性的であった。しかし、主イエスに結びついていた。そしてこの死に向う卑しい体が、キリストの体と同じ体の形に変えられる。キリストに結ばれている形である。礼拝姿勢はこの形である。

これを見失う時、人の地上の生涯の終わりは滅びとなる。しかし、信仰に根拠を持っているものは天に本国を持つものとして生きることができ。天のものは失われることはない。